

風流印字

特別号

●発行 (株)和歌山印刷所

■本社 :〒640-8412 和歌山市狐島609-9 TEL.073-451-4111
FAX.073-452-2631

■東京営業所 :〒101-0054 東京都千代田区神田錦町 3-7-2 東京堂錦町ビルディング 9 階
TEL.03-6658-8440 FAX.03-6658-8441

●発行年月日 2023 年 9 月 1 日

ラベル貼付位置

ご愛読ありがとうございます

関東大震災から100年 ～今一度、防災について考える～

今月の9月1日は関東大震災から100年の節目に当たります。また和歌山県でも紀州大水害から70年を迎えました。南海トラフ地震の発生確率が30年以内に70～80%と言われる中で改めて和歌山県の災害と防災について調べてみました。

記憶に新しい災害としては、海南市が6月初旬に発生した台風2号の影響で床上浸水の被害を受け、山間部では今もなお土砂崩れのため封鎖されている箇所があります。

また、防災については^{ひろがわ}広川町にある「稲むらの火の館」をわいんニュースレタースタッフが取材しました。

「稲むらの火の館」は、現在でも多大な影響を与えている濱口梧陵氏の功績を称え、後世へと強く受け継ぐ防災のシンボルとして2007年に誕生した施設です。1854年の安政地震津波が起きた時、濱口梧陵氏は稲むらに火をつけることで、広村（現：和歌山県有田郡広川町）の人々に津波が来ることを知らせて被害を防ぎました。施設内の「濱口梧陵記念館」と「津波防災教育センター」では、津波の恐ろしさや、彼が整備した堤防など、その一端を知ることができます。

まずは在任歴代最長の10年を誇る3代目館長の崎山光一氏にお話を伺いました。

崎山館長は就任以前より公民館などで防災に関する語りベサークル活動を行っていました。これが稲むらの火の館の言わば前身で、現在は小学生を対象としたジュニア語りベ活動、国内外への情報発信も積極的に行いながら、災害犠牲者を少しでも減らせるよう日々活動されております。そういった活動をしているため、和歌山で天災が起こった際はラジオ局やテレビ局から館長の元に状況確認について問い合わせがあるとおっしゃっていました。

また、県外の被災地にも支援の輪を広げられています。東日本大震災で被害を受けた旧大川小学校跡地には、^{さるすべり}広川町で育てた百日紅を植樹。崎山館長他スタッフ数人で1000キロ以上の道のりを運搬したとお聞きした際は、深い感銘を受けたと同時に、濱口梧陵氏の精神が脈々と受け継がれているのが伝わってきました。

インタビュー後は「濱口梧陵記念館」と「津波防災教育センター」を案内していただきました。施設内では濱口梧陵氏の偉業や精神・教訓を学べる資料や過去の災害写真などの展示、津波到来時のシミュレーションやクイズ、世界的展示物やシアターなど実際に災害を体験しながら学べ、大人のみならず子どもも楽しめる仕組みが数多くありました。また本施設の近くには「まもるくん」と書かれた建物があり、こちらは災害避難場所として町民を守る存在となっています。

「稲むらの火の館」施設情報

和歌山県有田郡広川町広671

0737・64・1760

午前10時～午後5時(入館時間は午後4時まで)

休館日

毎週月曜日(祝日の場合はその翌日)

※11月5日「世界津波の日」は開館

年末年始(12月29日～1月4日)

アクセス

湯浅御坊道路「広川IC」から北西へ約10分

JRきのくに線「湯浅」駅下車徒歩15分

関西国際空港からJRで約1時間30分

車で約1時間

南紀白浜空港から車で約1時間15分



●稲むらの火の館

(写真提供：広川町)



●とても気さくな崎山館長



●施設内の様子



●植樹した百日紅

(写真提供：崎山館長)

稲むらの火の館向かいには、物産販売飲食施設「道あかり」が2021年7月にオープン。
1階には広川町内の採れたて青果、ジャム、味噌、醤油、紀州広川銘菓の稲むら最中などが並んでいます。稲むら最中は広川町と箕島高校の共同開発で生まれた商品です。

2階のレストランは昼食時は観光客や地元の人達で賑わっており、和歌山県産しらすや梅干し・野菜がふんだんに使われ、味よし見た目よしのランチがリーズナブルに味わえます。施設オープンにあたっては、住民からレシピも公募しており、地域の方々と深く繋がる施設なのがお伺いしました。わいんニュースレタースタッフも「稲むらの定食(稲むら味噌豚定食)」、「道あかり定食」など施設にちなんだ定食を美味しくいただきました。



●箕島高校と共同開発した稲むら最中



●道あかりの施設内の様子



●地域の防災マップを確認しましょう

さて、今回のニュースレターは特別号として「今一度、防災について考える」と題して特集しました。過去の災害から学びを得るきっかけになれば幸いです。弊社も2年前の水道橋崩落による断水で長らく水が使えませんでした。防災意識が高まるこの機会に、防災グッズや避難ルートの見直しを行ってみたいかがでしょうか。特に避難ルートの確認に欠かせないハザードマップなら制作・印刷実績がありますので担当営業やお電話・メールなどでお気軽にお問い合わせください。いずれ来ると言われている大地震もいつ来るかわかりません。今日突然災害が発生しても落ち着いて行動できるよう、防災意識を高めていきましょう。

走れ、営業マン!!



ラグビーワールドカップ

辻本 英雄(営業部課長補佐:54歳)です!

もうすぐラグビーのワールドカップが開幕します。私自身はラグビーをやらなくなって16年程になります。最近ではテレビでラグビーを見ることが少なくなり、日本代表の半分以上は知らない選手になってしまいました。しかし、私たちの年代では考えられないくらいの大活躍で世界のトップレベルのチームと対等に戦っています。

今回の大会も前回のような凄い試合を見せてくれると思いますので、みなさんも応援よろしくお願いします。

ルールは解らなくても、楽しめると思います。



汗かき、暑がり、夏が苦手

砂山 典彦(営業部営業支援課課長補佐:51歳)です!

最近、二女がレゴブロックにハマっており、私も手伝っているとついつい夢中になって一緒に作っています。只、説明書通り作って完成しても、1時間もしないうちにバラバラになっていきますが、そこら二女は自由に自分で考えて自分なりのものを作っています。私にも何か作ってと言ってくるんですが、説明書を見て説明書通り作れても最近頭が固くなったのか、なかなかいい物が思い浮かばないまま作ったものは娘に「なにこれ」と笑われています。

年齢とともに想像力・発想力がなくなってきたのを感じる今日の頃です。



【わいんニュースレター】アンケート応募はこちら

ニュースレターのご感想などがありましたら下記のQRコードからご応募ください。

ご応募いただいた方の中から抽選でクオカード(500円分)をプレゼントいたします。



【わいんチャンネル】和歌山印刷所公式YouTube

和歌山印刷所公式YouTubeチャンネルでは、これまでの「あるある印刷の事件簿」のAR動画がいつでも見ることができます。是非チャンネル登録してご覧ください。



わいんチャンネル・和歌山印刷所
@wain-609
チャンネル登録



編集後記

災害と聞いて、私が真っ先に思い浮かべるのは阪神・淡路大震災(1.17)です。といっても当時は1歳にもなっていなかったため記憶はありません。次に浮かぶのは東日本大震災(3.11)。高校の授業中に少しだけ揺れて、じわじわと情報が伝わるにつれ動揺が広がり、緊急下校になったのを覚えています。幸運にも私や身近な家族に被害はありませんでしたが、この次どうなるかはわかりません。1.17から30年、3.11から12年。今の小学生以下の子には、大きな震災の経験がありません。なので先人に学ぶとするのと同じくらい、後人に伝えようとするのも大切なのだと思います。

(編集長: 植原健太)